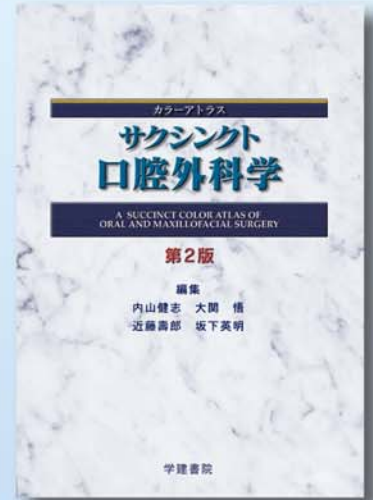


カラーアトラス サクシント口腔外科学

第2版

編著 内山健志 大関 悟 近藤壽郎 坂下英明
著 秋元芳明 幾本英之 池邊哲郎 酒巻裕之
重松久夫 柴原孝彦 須賀賢一郎 高野伸夫
田中章夫 西堀陽平 前田顕之

A5判 カラー 上製 422頁 定価 10,500円(本体10,000円+税)
ISBN978-4-7624-1661-3



- 「コンサイス口腔外科学」の改訂第2版。
「簡潔」, 「簡明」, 「ずばり」を意味するサクシントに改題。
・簡潔でわかりやすい解説と多数のカラー症例写真を見開きで収載。
・疾患別に整理し, 症状・診断・治療に分けて要点を絞り込んで解説。
・歯学生, 臨床研修医のバイブルとして, 開業歯科医師には座右の書として。
・口腔外科専門医をめざす方々にも役立つ1冊。

- | | | |
|--------------|--------------|----------------|
| 1章 先天異常・発育異常 | 5章 嚢 胞 | 9章 血液疾患 |
| 2章 外 傷 | 6章 腫瘍・腫瘍類似疾患 | 10章 神経疾患・心因性病態 |
| 3章 炎 症 | 7章 唾液腺疾患 | |
| 4章 粘膜疾患 | 8章 顎関節疾患 | |

■ 囲繞結紮法 circumferential wiring fixation :
歯を固定源として利用できない無歯顎や乳歯列の下顎骨骨折の固定に適応される。受傷前に患者が使用していた義歯や模型上で, あらかじめ作製した床副子を支持源として固定を行う。誘導針を用いて固定用金属線を皮下組織中を通過させ, 下顎骨と義歯または床副子を周囲して結紮固定する(図2-10)。下顎骨周囲の唾液腺管や血管, オトガイ神経などの軟組織を巻き込まないことと, 術後感染予防に注意を払う。

◆ 観血的整復固定法 open reduction and fixation(図2-11~13)

外科手術による整復固定である。口腔粘膜や皮膚を切開し骨膜を露出し, 整復する。現在では, 下顎骨骨折のほとんどは観血的整復固定が適応される。

陳旧性骨折では骨片間の癒着, 腐骨などを除去し, すでに不正癒合している場合は, 再授動して整復固定する。大きな骨欠損部には骨移植を行う。

固定法には, 骨縫合法, 骨接合プレート・骨ネジ固定法, キルシュナー鋼線固定法がある(表2-1)。

骨縫合法: 骨片を金属線で縫合する方法である。顎間固定のみでは不十分で, 整復後に骨片の偏位を防止するために行う。金属線に緩みができることから, 顎間固定が必要となる。

金属プレート・スクリュー固定 plate and screw fixation: 骨折線上に適合させたプレートをスクリュー固定するもので, 素材はチタニウム, ステンレス鋼, コバルトクロム合金などの金属であり, その他吸収性素材のものもある。形状はミニプレート, AOプレートなどの種類がある。

表層の唇側皮質骨のみの固定法 monocortical screw fixation は, 神経, 血管, 歯根などの損傷を起こさない利点を有し, 高頻度で使用される。骨髄を貫通して反対側(舌側)の皮質骨まで固定源とする方法 bicortical screw fixation は, より強固な固定を期待できる。

キルシュナー鋼線 Kirshner wiring: 骨髄内に弾性のある比較的細い径の鋼線を貫通させて骨折片を固定する顎内固定法の一つである。固定力は弱く, 下顎頭部骨折以外ではあまり行われない。

表2-1 顎骨骨折治療に用いられる主な固定法

- 1 顎内固定法(観血的固定)
 - ① 金属線による骨縫合法
 - ② 金属プレート・スクリュー固定
 - ③ キルシュナー鋼線
- 2 顎外固定法(非観血的固定)
 - ① 歯牙結紮法
 - 単結紮法
 - 2歯結紮法
 - 連続歯牙結紮法
 - ② 線副子法
 - ③ 床副子法(囲繞結紮法の併用もある)
- 3 顎外固定法
 - ① 骨釘法
 - ② オトガイ帽装置
 - ③ 頸帽口外装置



図2-10 囲繞結紮法



図2-11 下顎骨骨折
ミニプレート設置部位を示す Champy の ideal line.



図2-12 下顎骨骨折
チタン製ミニプレートによる固定。



図2-13 下顎骨骨折



図2-14 下顎骨骨折
AOプレートによる固定後の状態



図2-15 下顎骨骨折
術後: パノラマエックス線像